

## 復活節第二主日

2014.4.27

ヨハネ 20・19-31

先週の日曜日、私たちは復活祭を祝いました。私たちが祝った復活祭の喜び、私たちが信じる主の復活が私たちにもたらした喜びは、今、私たちの中で、どのようになっているのでしょうか。

今日の復活節第二主日のミサの中で、私たちは、ヨハネ福音書に記されている、二度にわたる復活された主の弟子たちへの訪れについて聴きました。イエスを十字架に追いやった人々を恐れて、戸口に鍵をかけて閉じこもっていた弟子たちの真ん中に立たれた主は、「あなた方に平和があるように」と呼びかけてくださいます。その時、彼らは自分たちの中に立って、そう言うてくださる主を見て喜んだのです。けれども、それから八日目に、再び復活の主をお迎えすることになった時にも、部屋には依然として鍵がかけられていたのです。

最初の主の訪れの時にその場に居合わせなかったトマスは、その閉ざされたままの部屋の中で、「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、またこの手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」と言い張り続けたのでした。トマスの気持ちが分かるような気がします。トマスは他の誰よりも、頑なで、疑い深かったということではないと思います。他の皆が「私たちは主を見た」と言っているのに、自分はその場にいなかったという、とり残された疎外感がトマスをあのように頑なにしたとも考えられます。けれども、あの鍵のかかった、閉めきられたままの部屋の中で、「私たちは主を見た。」「私たちは復活された主とお会いした」と言っている仲間の言うことを、誰がそのまま信じる事が出来るのでしょうか。復活の主を喜びのうちに迎えたはずの弟子たちを包む空気は、その彼らが醸し出す雰囲気は、少しも変わっていなかったのです。そのような仲間たちが言うことを、トマスでなくても誰が信じる事が出来るのでしょうか。

「あなた方に平和があるように」これが、閉めきった部屋に鍵をかけて閉じこもっていた弟子たちに復活の主が呼びかけてくださった第一声でした。この平和の挨拶をもたらすために、復活の主は、ご自分を十字架の上に見捨てて、自分たちも同じ目に会うことを恐れて、鍵をかけて閉じこもっていた弟子たちのもとを訪れてくださったのです。最初の復活の主の訪れの時、弟子たちは自分たちの真ん中に立たれた主を見て喜んだと語られています。けれども、「あなた

方に平和があるように」と呼びかける、復活の主がもたらしてくださる平和が、トマスも含めて皆の心を満たすためには、二度にわたる復活の主の訪れが必要だったのです。繰り返しますが、復活の主の訪れの喜びを知った後でも、弟子たちの状況は変わってはいなかったのです。弟子たちだけが集ったあの部屋には依然として鍵がかけられていたのです。その締めきられたままの部屋の中で、トマスは「自分は信じない。自分には信じられない。」と言い張っていたのです。復活の主の訪れを確かに経験したはずの弟子たちは、自分たちの仲間のトマスにさえ、彼らが経験した喜びを伝えることが出来なかったのです。そのような仲間同士、顔を突き合わせながら、途方に暮れた弟子たちが集う澱みきった部屋の中に一週間の時が流れて行ったのです。そのような弟子たちのために、復活の主は次の週の初めの日にあらためて、彼らの真中に立ってくださるのです。そして、「この目で見、この手に触れなければ決して信じない」と言い張っていたトマスの心をも開いてくださったのです。「私の主よ、わたしの神よ」トマスのこの信仰告白の叫びは、それを聞いた、その場の皆の信仰告白となったのです。こうして弟子たちの皆が、「あなた方に平和があるように」と呼びかけておられる復活の主がもたらしてくださる平和に満たされたのです。

今日の福音に語られている二度目の復活の主の訪れの時、弟子たちは皆、復活の主がトマスに向かって語りかけてくださったことばを聴き、その主に応えたトマスのことばを聴いたのでした。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」復活の主がトマスに語りかけられたこのことばを心のうちに思い巡らすうちに、弟子たちはあの最初の訪れの時の主のことばが意味していたことを悟ったのです。聖霊を受けなさいと言いながら、復活の主が自分たちに吹きかけてくださったあの息吹が、そのおことばどおり神のいのちの息吹であることを悟ったのです。

復活の主が弟子たちの真中に立ってくださった時、彼らは、自分たちがその場から逃げ出した、十字架の上に死んだイエスを見たのです。けれども、福音書に語られているイエス・キリストの復活ということは、それだけのことに過ぎないではありません。弟子たちの真ん中に立つイエスは、「あなた方に平和」と呼びかけて、彼らにご自分の息を吹きかけてくださるのです。そのようなイエスを自分たちの中に迎えることができたとき、弟子たちは、自分たちが十字架に見捨てたイエスによってゆるされていることを悟ったのです。十字架の傷跡をその身に負ったままのイエスが、「あなた方に平和」と語りかけ、その復活のいのちの息を吹きかけてくださった時、弟子たちは自分たちのあのような過

ちにもかかわらず、復活の主のいのちの懐の中に抱きとめられていることを悟ったのです。十字架の上に死んで復活された主が、ご自分の復活のいのちそのものである聖霊を吹き入れてくださったことによって、弟子たちは、悔やんでも悔やみきれない自分たちの過ちの中から立ち上がる力を得たのです。最初の人アダムが、創造主である神のいのちの息吹を吹き込まれることによって生きる者となったように、弟子たちは今や復活の主のいのちの息吹である聖霊を吹き込まれて、自分たち自身のうちに復活を体験した者たちとされたのです。彼らは、復活の主の息吹を受けて、自分たちの過去の過ちから解き放たれて、新たないのちに生き始める新生を経験したのです。イエスの復活は、アダムの罪を引きずるこの世界に、イエスの復活によってもたらされた、そのような新しいいのちを生きる人々を生み出したのです。そして、弟子たちの真中に立った主は、新たな復活のいのちに満たされたこの人々を世界に送り出してくださいました。

弟子たちが復活の主に送り出されて、宣伝したことは、彼ら自身が復活の主によって経験させられたことです。彼らは、自分たちが十字架の上に見捨てた、十字架の傷をその身に負っている復活の主が何事もなかったかのように、「あなた方に平和があるように」と呼びかけてくださったことの証人となったのです。その復活の主が与えてくださるゆるしと平和を信じて、身を委ねることができるなら、人は自分の過ちによる如何なる失敗と挫折を経験しても、そこから立ち上がる力を見出すことが出来るということを力強く宣伝する者たちとされたのです。それだけではなく、そのような復活の主の絶対的なゆるしを体験した者たち同志として、彼らは、如何なる困難があろうとも、相互に受け入れあい、ゆるしあえる新しい神の民の共同体を作り上げて行く者たちとして、復活の主によってこの世界に送り出されたのです。その彼らの行く手を支えたものは、この世の力によって十字架に追いやられ、葬り去られたイエスを死者の中から復活させ、自分たちの前に立たせてくださった神の全能の力は信じるに値するという確信です。自分たちは、復活の主イエス・キリストによって、イエスを死者の中から復活させた神の全能のいのちの力を吹き入れられ、新たないのちを生きる者たちとされたという信仰に基づく自覚です。それゆえに、彼らは、自分たちが歩み始める新たな旅の途上で経験するあらゆる苦しみと悲しみは、復活の大いなる希望に向って開かれた、復活の主が招く十字架の道、神によって与えられた試練なのだとして受け止めることが出来るようになったということ、全生涯をかけて証する者たちとなったのです。復活の主によって弟子たちの前に開かれたこのような信仰は、その弟子たちの宣教によって始まった教会を通

して私たちに伝えられ、私たちを生かすいのちとなったのです。イエス・キリストの復活によってもたらされた、このような信仰に基づく希望を生き、証する使命を私たちも受け継いでいるのです。その使命を生きる力を、聖体の秘跡を通して私たちの中に注ぎ込んでくださる復活の主に、今日も願い求めたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高